

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 164	提案機関名 JAかながわ西湘営農部指導課
要望問題名 水稲の栽培体系の再検討について	
要望問題の内容 【 栽培体系の再検討 】 近年、猛暑や降雪など過去にない気象が続いており年々水稲の植え付け時期が早くなっている。各地区の水利条件も異なりますが、現在の気象条件にあった栽培体系の再検討をお願いしたい。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 水稲奨励品種決定調査事業、普通作物における安定生産技術の開発		
対応の内容等	神奈川県的主要品種である‘キヌヒカリ’と‘さとじまん’は、夏季の高温に弱く、出穂期以降に27℃以上の高温が続くと白未熟粒の多発により品質が低下することが問題となっています。 水稲の移植時期が早まると、出穂期に高温に当たる可能性が高まります。 穂肥に重点をおく後期重点型の肥培体系が品質の向上につながることを福岡県から報告されており、また、高橋ら(2004)は、疎植栽培にすることで白未熟粒の発生を軽減することを報告しています。これらのことから‘キヌヒカリ’を用いた実用性試験により、後期重点型の肥培体系と疎植栽培を組み合わせが品質の安定につながるかについて検討を行っていますので、随時結果を公表していきます。また、‘キヌヒカリ’において品質改善が図れましたら、‘さとじまん’においても試験を実施します。 高橋 渉(2004)、温暖化条件下における「コシヒカリ」白未熟粒発生軽減のための適正栽植密度、富山農技セ研究成果		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			